

三菱 零式艦上戦闘機 52丙型

ハセガワ 1/100スケールプラスチックキット
製作・文 政府開発援助

1. 零戦52丙型について

軽快な運動性と想像を絶する航続距離で快進撃を続けた零戦であったが、戦闘機の進歩は凄まじく、昭和18年初め頃には速度や火力の面で敵機に遅れを取るようになった。零戦52型シリーズはこの面に主眼をおいた改良型で、翼幅の短縮と推力式単排気管の装備により速度の向上を図り、約6,000機が生産されて終戦まで海軍航空隊の主力として戦い続けた。

零戦52丙型は13mm機銃左右各1門を主翼外部に追加し翼下にロケット弾等を装備できるようにしたもので、主として大型爆撃機相手に使用された。

2. キットについて

ワンアワーコインシリーズとして展開されているもの(形状は全て同一)の内、今回は現地応急迷彩型のキットを使用しました。キャンピー枠と主要部品が塗装されたはめ込み式のキットで、どちらかというと入門用キットの様な仕様ながらプロポーション・モールドともきちりしています。

3. 製作と塗装について

カウリング・コクピット・脚収納部・主脚カバー等に定番の工作を施しています。カウリング右側の機銃口をひと回り大きくし、翼下面にはロケット弾止め金具や翼内機銃ハッチのふくらみを追加し、20mm機銃をステンレス線で、13mm機銃を伸ばしランナーの先端を細くして再現しました。52丙型の特徴である後期型の増槽は5mmプラパイプの前後にパテ盛りしたものを電動ドリルに啜えさせて削り出し、エポキシパテに反転して仕上げています(着脱可)。

塗装はクレオスの明灰白色を吹いた後、ラッカー系の暗緑色を用いて上面を三菱系のパターンの筆塗りで塗り分け、その後薄松葉色とカーキの調合色(二種類)を硬めの筆に付けて叩き、退色表現を行っています。カウリングもラッカー系の専用色の上にガンダムカラーのファントムグレーを同様にして重ねました。マーキングは撃墜王として有名な岩本徹三少尉の機体とし、機番や日の丸のデカールはハセガワの1/32キットを元にデータを起こしてMDプリンタで自作したものを使用しています。墨入れはガンダムマーカーの茶系統の物を用いました。



前方より



側方より